

税理士の ひとりごと

No. 129

忘れてはいけないこと

税理士 齋藤明

ネットニュースのヘッドラインが「円安が一段と加速。一時156円台に値下がりし約34年前の水準」と報じていました。確かに私も海外に行くたび『何でも高いな』と辟易させられてしまうのです。

しかしそれは円安だけが原因なのではなく、日本のデフレもその大きな要因となっています。例えばハワイに行くとコーラを買ったとしましょう。その時の為替が1ドル100円でコーラの価格が1ドルでした。その後円安が進行し1ドルが150円になったとすると、私たちはハワイでコーラを飲む時に150円支払うことになります。しかも日本はデフレでモノの値段が上がらないのに、アメリカはインフレで物価が上がっているのに、コーラの値段が2ドルになってしまいました。そうすると私たち日本人はコーラを買うのに日本円で300円支払わなくてはなりません。つまり私たちは海外に行

くと日本の3倍の値段で買い物をしなくてはならないということです。今まさにアメリカに行つてラーメンを食べると20ドルくらいしていますから、ラーメン一杯の値段は3000円近い値段ということになり、私たちのラーメン1杯1000円」という肌感覚のちようど3倍ということになってしまふというわけです。

実際に私も海外を彷徨い歩いていると、え？ビールが1杯2000円？え？このボロい宿が一泊3万円？と、そんなショックの連続で段々と気分が凹み、一気にケチケチ旅行者へと変容していくのです。しかし人間には「忘れる」というスバラしい能力が備わっています。それは本能的にある程度「忘れる」ということができないと、例えば身内や親友などの死に接した時の悲しみや、怪我をした時の痛みなどをつまでも引きずったまま生きていけないので、脳が自動的に『都合の悪いこ

となど忘れてしまえ!』と指令を発してくるのです。やがて私は脳の指令に従い、物価が高いことなどに対して何も感じなくなり、ケチケチ旅行から解放されることになるのです。

その一方で、もしも私がまだもう少しばらく現役の税理士として仕事を続けていこうと思うのであれば、忘れてしまいたい悲しい想い出と一緒に、税法や顧客からの依頼事項などを忘れてばかりいては話になりません。だから、忘れてしまいたいことはさっさと忘れ、忘れてはいけないことはずっと頭にとどめておきたいと都合の良いことを考えてしまうのですが、それがなかなか難しいのです。しかし体力や記憶力の低下がコントロール不能だからといって諦めるのも悔しすぎるので、私はもう少しの間だけでもジタバタと老化に抵抗してやろうと決意をあらたにしたそんな先日のこと、私の姉の長女(姪っ子)が会社を辞めてカナダに旅立ち

ました。数ヵ月前に私の姉(姪っ子からすると母親)が癌で呆気なく亡くなってしまったのを機に、亡くなった母親がこれからどうやって生きたら喜んでくれるだろう?ということを考えた時に、『自分が幸せになることが一番の弔いになるのではないか』という結論に達し渡加を決意したのだそうです。私はそれを聞いて『すごく良いじゃない!』と思ったのです。

なのに、テレビやネットを見ていると『円安だから海外旅行は無理』みたいな話ばかりだし、昨日一緒に飲んだ銀行に勤める友人は、『もうすぐ役職定年になって、将来がまったく見えない』とこぼしながら転職などは全然考えていないと、未来に対してまったく前向きではないのです。若いうちにしか行けない旅だってあるでしょう。退職後の労働市場での価値と現役の時の市場価値とは雲泥の差があるでしょう。それなのに、彼らは「真面目に生きてい

ればきつとそのうち良いことがある」と信じているのでしょうか? そんな彼らが若かりし頃には、安室ちゃんが『Don't wanna cry』という曲の中で『そうやって待っていても無駄だって』と歌っていました。それを聴いて『待っていたって未来なんて変わらないのだから自分からどんどん動いて未来を変えていこう!』と、誰もがその歌詞に共感したと思うのだけど、もう28年も昔のことなんて忘れちゃったのかな?



Akira Saito

神奈川生まれ。平成15年税理士登録。東京税理士会支部。齋藤明税理士事務所所長・日本税務学会経営部門委員・医療法人研水会監事。「波乗り税理士」に波に乗るか?」<http://blog.livedoor.jp/saiki555/>

【近況】冬が終わり、春が訪れ、我が家の庭の雑草は取っても取ってもキリがありません。やむなく毎朝、出勤前に雑草を取るのです。私の指の爪は土で汚れて真っ